# TS転生していくスタイル

ストミヤス

## 【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

※この小説は駄作です。

※初投稿です

※いろんな二次小説等の影響を多々受けております。

※エタる可能性は大

それでもいいという方はどうぞ

文章力と表現力あげたい（願望）

# 目次


01 …… 1
02 …… 4
03 …… 9
04 …… 14
05 …… 18

# 01

起きると目の前は、きれいな青空だった。
肌を撫でる風、川のせせらぎ、小鳥の鳴き声と何かが引き裂かれ叫ぶ声、そのあとから聞こえる捕食音
……そう、とてもリアルな夢だった（現実逃避）
（うっせやろ…？ハードすぎひん？）
現実逃避したいと思いながら顔を向けるとと少し先に喰われたであろうヒトとそれを食べる狼が3匹いた。いて、しまった…。いて、ほしくなかった…。
（やばいやばい…このままいたら喰われてまう）
逃げなければ、と思いゆっくりとその場から離れようと気づかれないように匍匐前進をする。
（普通の小説ならばここで音を出して逃げるか戦うかだが、そんなへまはしない、したくないし、したら絶対に終わってまう）
狼から十分に離れ、音を頼りに川の近くまで来たところで自分の姿を見てみた。
（まぁ転生？したら、最初はじぶんの顔見るよなぁ…なんでこんなところにいるのかわからんが）
だがそんな思いとは逆に、川だと自分の顔はちゃんと見れなかった。分かったのは、長い黒髪と緑色っぽい目？と後は、普通の人体にはない突起物が頭から二つ出ていた。
（あら？これは…）
そう思いながら頭の突起物をゆっくりとした手で触るとふわりとした感触と少しくずくったい感触が返ってきた。
（獣人かぁ…異世界で獣人って多くは、差別の対象になるんだがどうなんだ）
多くの異世界転生の小説では、人間以外の種族は不利な状況が多かった、吸血だったりエルフだったり、獣人もあんなことやこんな状況が多かった気がした。
次に体を見てみた、絶壁ではないが小ぶりな山が2つとつるんとし

た下半身と背中には長さが肩までありそうな狼の尻尾が見えた…そして全裸だった。
（ふむ…これは、性転換じゃな？…しかも幼児化で獣人化かぁ）
悲しいなぁ
（いや小説は見てて面白かった、しかししかしな？自分で体験するのはなんか違うんだよぉ違うそうじゃないんだよぉなんで服ねぇんだよぉ異世界人生イージーモードで行きたかったよぉ）
幼児化した影響か少しうるんでしまった。
…少し時間がたって…
冷静になり始めた頭でフル回転させこの場からどうするかを考えた（強制）
（怖いが狼たちがいたところに戻るかぁ）
と、狼たちがいたところにゆっくりとした歩きで戻っていった。
（狼いねぇよな？もうどっかに行ったよな？）
周りを見てみるがさっきまでいた狼は、いなかったが喰われたであろうヒトだったものはあちらこちらにばらまかれ、着ていたものもそこら中にばらまかれていた。
（ウッ…これは、ちょっと）
ｎｉｃｅ，ｂｏａｔ
（中にあったものはなんもなかったのか胃液のしか出ねぇよぉ）
草むらに吐いた後にゆっくりと人だったものに近づく。
（ウッ、グゥ、匂いがきつすぎる現代で養われた感性じゃぁきちぃよぉ）
鼻をつまみ目を少し細めてヒトだったものが身に着けていたものを拾い始める。
（服は洗えば大丈夫、ナイフは持った方がいいよね、後は…）
と集めた結果、上着とマント（そのほかはサイズがでかく着れなそうだった）、ナイフが3本、小銭袋と水筒？みたいな形のものとなんかの緑色の薬っぽい何かを拾いさっきまでいた川まで移動した。
（血ってなかなか落ちひんよなぁ…染みは仕方ないが匂いは気を付けていかんと、しかしもったいないなぁロングソードとかあったのに、

身の丈に合わんとは重過ぎるし、服も幼児化したためか着るのは難しそうだし…ブツブツ）

　そして洗い終わった服を着てみたがなんともワンピースみたいな感じになってしまった、もう仕方ないと思いマントを付け、ナイフ2本と緑色の薬？と小銭袋は上着の中にしまい、水筒？には新たに水を入れ上着の外側につけ、護身用として手にナイフを1本持って気持ちを新たにし、川を後にした。

（はぁ…改めて思うと何でこんな馴染んでんだろ、そしてなんでこんなところにポンっておいてかれてるんだろうなぁ、ハァまぁなっちまったもんは仕方ないかぁ頑張って人生デスモードにならんようにしなんとなぁ）

# ０２

私は今、森を駆けている…２匹の狼に追いかけられながら
（うっそやろぉ！ウサギ追いかけたら、狼に追いかけられるなんて油断した！ここまで狼に見つかんなかったからって慢心してたぁ！）
こうなる２０分前…
（なんで漁ったとき食べ物持ってこなかったんだよぉ）
腹が減った、そう腹が減ったのである。
漁ったときは、さすがに食欲は湧かなかった。
しかし今では、お腹がクゥと二次元でしか出せないような音を出している。
「ハァ…」
（ため息もでてまうよ、こんなんなったら）
すると少し先にウサギが、立ってキョロキョロと周りを見ているのが見えた。
（あれウサギじゃね？やった！ご都合主義バンザーイ！もう勝ったな）
そして（都合のいいときだけ）神に感謝しているとウサギが奥の方に移動をし始めた。
（やば、このままでは逃げられちまう。そぉーといこうそぉーと…）
茂みに隠れながら、右手にナイフを持ってゆっくりとウサギに近づいて行ったが、後一歩の所で逃げられてしまう。
「アッ、くっそ」
（待ちやがれ、このっ食料ぉ！）
追いかけたがドンドンと距離は、離れていくと思ったが逆に近づいて行くように見えた。
（おっしゃぁ、このまま、このまま）
と追いかけていくと音に違和感を感じた。
自分とウサギそれと後ろから走って来るような音がした。
その音が気になり、後ろを向くと…
「うっせやろぉ！」

（なんでいんねん！）
そう、黒い狼が２匹追いかけてきたのであった。
回想終了
あのウサギは、俺が目を外した途端に見失っている。
そして、違和感に気づいた。
（あれ、こっち幼女で荷物持ってんのに追いつかれてないし、俺自身もあまり疲れてない？（腹は減ってるが））
もう一度後ろを見ると１メートル以上はありそうな黒い狼が近からづも遠からずの位置で追いかけてくるのが見える。
（これは、もしかして？いけるか？）
（ずっと逃げてても埒があかん、やるしかない！）
（できるできる俺はできる子、やればできる、頑張れ俺いけるぞ俺！）
と自己暗示をかけながら決死の思いで１８０ターンをし、黒い狼に突撃を始めた。
狼側にとっては逃げてた弱そうな獲物が、急にこちら突撃したため、諦めたのかと、その弱そうな体で抵抗するのかと思ったのかわからないが、
１匹目の狼は牙をむき出しにし、そのまま幼女の首を噛み千切ろうと突撃した。
（いけるいける俺ならやれる！）
「ウォラァァァ！」
ザシュゥゥ
ポ　　キ
黒い狼が牙を出し、首を横にしたとたん。
幼女はそのまま横にずれ、ナイフを狼の顎の骨に当たらないように顎に刺してそのまま一直線に首下まで振り抜いた。
「やってやったぞぉこのやろぉ！」
と後ろにいる切りつけた狼をちらと見て、起き上がらないところを確認した後にもう１匹の狼にナイフを向けて叫んだ。
狼の方は、少し固まった後に距離を取って唸ってきた。
（あれ？これやばくない？）

そう、警戒されてしまったので攻撃が当たりにくくなってしまったのだ。
そして、もう1つ最悪なことに…
「ナ、ナイフAェェェェ！」
≪おまえ…との旅…楽し…かったぜ…≫
ナイフの刃が根元からぽっきり折れてしまったのである。
（やばいやばいやばい、これナイフ取り出してる途中に攻撃されちまう）
と心の中で焦りながら、狼の方を見ているとなんか妙な髪形をしていることに気づいた。
狼の前髪に水色のメッシュが、入っていたのである。
と警戒しながら観察していると、メッシュ入りの狼は目の前にスイカぐらいの水の弾？みたいなのを出したとたんに
バシュ！
（あっぶな！なに、あいつ遠距離攻撃できるんか！うっせやろ！）
警戒していたおかげか、〝ゆっくりと〟飛んでくる水の弾を避けた。
途端に後ろから大きな音が出ため、後ろをちらと見てみると、木が何本かなぎ倒された。
（えっうせやろ？あんなん当たったら血煙に変身してまうぞあれ…）
冷や汗を流しながら、狼の方向にまた向けるとまた水の弾？を撃とうとして来た。
（また撃つつもりか！　そんな危ないもん撃たせるわけねぇやろぉ！）
とナイフの柄を狼の方向に投げたが少しずれた方向に飛んで行ってしまった。
が、危ないと思ったのか拳ぐらいにまで貯まっていた水の弾？を、中断してナイフの柄を避けた。
幼女は、その隙を見逃さずに狼の方向に突撃を開始した。
（俺はやればできる子、俺なら…行ける！）
狼側は接近してきた幼児に向かって、腕を振り上げ薙ぎ払おうとし

たが
幼女は”ゆっくりと”した狼の薙ぎ払いをジャンプして避け、マントを狼の顔にマントをかけた。
（今がチャンス！これを見逃したらほぼ負けてしまう！）
「ぶっ飛べやぁぁぁぁ！」
と狼のところまで走り、その横っ腹にドロップキックをぶちかました。
狼は木のところまで飛んでいき、そのまま大きな音を立てて木ごと狼を吹き飛ばした。
（い、いけるかなと思ったがまさかそこまで行くとは思わなかったが、賭けには勝った）
一応安全のために吹き飛ばした狼のところまで行くと、虫の息だったがまだ生きていた。
（また襲われてもたまったもんではない、ここで殺しておかないと…）
上着の中から予備のナイフを取り出し、狼の首にゆっくりと向けた。
フゥーッ、フゥーッ、フゥーッ、ッフン！
一思いに刺すと肉の感触とともに生々しい音が耳に響いた。
「ッング…フゥーッ…フゥーッ…ウグッ」
そして、我慢できずに草むらでＮｉｃｅＢｏａｔ
茂みの中でした後に、忘れかけていた最初の狼の方に目を向けてみたが、血の池ができており動く様子はなかった。
少しだけ静寂が戻り、アドレナリンが抜け冷静になってきた頭で現在の状況を把握しようとした。
（…なんか、まだ1日目なんだが、この世界に異常な速さで慣れていくような気がするがこの状況だ、仕方ないし、生きていればそれでいい…）
（まぁとりあえず、狼を回収して、川に行かんとな）
マントで狼2匹の足を繋げてから、耳を傾け川の音を探す。
（川の音は…あっちだな）

そしてマントで繋げた狼たちを引きずりながら川の方向へと戻っていった。

## 03

はい、いつもの川につきました。
最初は、顔とかの汚れを落とすために周りに警戒しながら川に近づいていくと、川に映っていた自分の目が橙色に光っていた。
(あれ、前は緑色に光ってなかったか?)
その目が気になりジッと見ていると、ゆっくりと橙色から緑色に戻っていった。
その変化に驚き目を見開いていくと…
ガサッ
ヒュッ、と変な声をした後に、後ろに首を向けるが
そこには何もいなくただただ茂みの葉が左右に揺れているだけだった。
(チッ、ビビらせやがってぇ、めっちゃ怖かったぞぉ、このやろぉ)
と心の中で舌打ちと悪態をつきながら ※チビってはない←これ重要
改めて川の水をすくい顔と手の汚れを落とす。
「アァ…」
(火照った顔が、冷えていくのが分かるぅ、めっちゃ気持ちええ)
と顔を洗った後に服を脱ぎ中にあった道具らをそばに置く。
服を見てみたが元々ボロボロだったのに合わせ、狼の血だろう染みが多くついていた。
(殺人鬼かな?いや実際殺してしまっているが)
と思いながらも川に服をつけ、洗い始める。
が汚れがしつこく、落とすことに苦戦を強いられた。
(全然おちへんぞぉ、これぇ)
数十分経過
「少しだけ残っているがやっと落ちたわぁ」
と達成感に満ち足りた顔をしながら上を向いて
(まだ日は、少し傾けた程度か、最初に起きたときも傾いてたし、午前中に起きて今は、午後1時か2時か?)

と考えながら、洗い終わった上着を乾かすために、少し離したところに置く。
置いた後に狼の方に振り返った。
（あの狼解体せぇへんといかんとは…気が滅入るなぁ）
「ハァ」
とため息を出しながら狼につながれているマントを引っ張る。
少し重い
（なんでだ、ここまで持ってくるときは軽かったのに…）
狼を川の近くまで引きずっていき、ナイフで毛皮を剥ぎ取ろうとする。
フゥーッ、フゥーッ、ングッ、ハァハァ…
が、視界が狭くなり手は震え、呼吸が荒くなっていくのは、知っていたがやはりかと自分で納得してしまう。
一旦、ナイフを置き深呼吸をし、気分転換に森の方に顔を向ける。
と気づいた。気づいてよかったと思った。
マントに繋いでいた狼をそのまま引きずっていたため血の跡が多分だが戦った後からここまで続いていたのである。
（引きずってきたから、血の跡がめっちゃ続いてるやん）
と自分の行動に呆れると同時に、この血を見て誰かしら来るのではないかと焦り
狼の方まで戻り、ナイフを手にし、狼と向かい合う。
最初は、腹にナイフをゆっくりと刺し、皮を剥ぎ取る。
皮をはいだ後に四肢を切り、爪も切っておいて一応そばにおく、四肢は木にさっき見つけた蔓で日に当たりやすいところに吊り下げておく
残った体は解剖して同じように吊るし、胃袋は予備用の水袋として裏側にし、川で洗っておき、肉が干してある木とは別の木に干しておく。
そして残った皮も川で洗い、胃袋と同じ木で干して乾かす。
この作業中に吐き気を催してしまい、何回か茂みでしてしまったが、ここでやっと1匹目が終わった。

（やっと終わった、吐いちまったせいで腹が減ったわぁ）
解体したせいで血だらけになった体を一旦、川で清めておく。（描写はないスマヌゥスマヌゥ）
ここで少し周りを警戒しながら、上を向いて見ると
（やばいなぁ、傾いてきたよぉ）
大体、5時ぐらいなのだろう、空はオレンジ色になっていた。
（解体に時間掛かけすぎたなぁ）
この時間では、解体は難しいためもう1匹の狼は別の木に吊しておく事にした。
（そういえば、魔法？みたいなの飛ばしてきたなこいつ）
木の枝に飛び移っている途中で、今吊している狼が水の弾を飛ばしてきたことを思い出した。
（ここは異世界、もしかしたら？もしかすると？できるのではないかな？）
木から飛び降り、立った後に目を瞑り、手を前に突き出し集中してみる。
（今ほしいのは、炎…大体拳ぐらいの大きさ…）
すると手のひらからボオッ、という音がなった。
やった成功したと思い、目を開けて見ると
（ちっさ！なにこれ、ちっさすぎんだけどぉ！）
手のひらにあったのは、小さなマッチぐらいの大きさの火であった。
（えぇ？まじぃ…マジかぁ）
と落胆しながら、手を握ると少し熱かったがすぐに火は、消えてしまった。
（まっ…まぁ？炎とは相性が悪かっただけかもしんないしぃ？火ぃ点けるんならこれぐらいでいいんじゃないかな？）（震え心声）
一旦、周りにある枝や落ち葉などを一カ所に集め、軽く集中し火を点ける。
（よしよし、一応焚き火はできた…まぁ血の跡は消せてねぇが俺のセンサーにまだ引っかかってないし大丈夫やろ！）（慢心）

点けた後は、吊してある四肢を持ってきて骨を、地面に突き刺し肉を焼いておく
するとお腹がすいたせいか、とてもいい匂いがする。
（まっ、待て待つんだ俺まだ警戒を解くんじゃぁない、匂いに誘われて来る奴がいるかもしれない）
待っていると、いい感じに焼けてきたであろう
肉を引き抜いてから軽く冷まし、そのままかじりつく。
（うめぇ、うめぇよぉ、腹が減ったせいなのか分からんが今はどうでもいい！）
素早く食べた後にまた一本、一本と食べ、近くにおいてある水筒を一気に飲んだ。
（あぁ、幸せだぁ、すんげぇ幸せだよぉ、今）
今の状態、幼女の顔はだらしなくなっているが誰も自分も気づいてない。
食べ終わった後に上を見上げると少し暗くなり、星が点々としている空が見えた。
それに見とれていると
（これ…やばない？）
冷静になってみると今の状況がとても悪いことに気づき急いで置いてある上着を着て、道具等も全て上着の中にしまった。
次に解体中の狼をマントの上に置き、巾着みたいに結んだ後肩に背負った。
次に干してある肉に繋いでいる蔦を引っ張り、枝に引っ掛けておく。
最後に巾着を根元に置き、毛皮を干してある木にジャンプして飛び移った後に蔦を引っ張った。
（暗いがこれで…大丈夫か？）
周りを見回した後、上に向いた。
（完全じゃないが真っ暗やなぁ、電気が恋しい）
登った木を背に寄っかかりながらそんなことを考える。
途中で睡魔が来てしまい、まぶたがゆっくりと落ち、意識が暗くな

る。
（…凄い1日だったが…もしかしたら夢かもしれない…起きたら…
ベッドで横になってて…）

# ０４

おはようございます。
朝です。
一旦周りを確認し、何もいないことを確認する。
（夢だったらよかったんだがなぁ）
欠伸をしながら、木を降り、体をいったん伸ばす。
（しっかし、ご都合主義っぽいなぁ、周りに誰おらんわぁ）
もう一回周りを見回す。
引っかけてある、毛皮や肉は取られた気配はなく、
吊るされてある、血抜きされた狼は、血が抜け終わったらしく地面は血だまりができていた。
ほっといてあった、血の跡はまだ残っており、近くには足跡は無かった。
（なんか気味悪りぃな、普通は肉食動物か、人が来そうなもんなのに）
もう一回周りを見回す。
肉食動物はそうだが草食動物もいなかった。
全身から冷や汗が出る。
ナイフを両手に持ち、周りを警戒する。
注意して、聞き耳もしておく。
草木の揺れる音、川のせせらぎだけが聞こえ、小鳥の鳴き声等の生き物の声が全く聞こえなかった。
（なんかすんごいこわい、尋常なく怖い、太陽は出てきたばっかりやぞ）
バクバクと心臓の音がうるさい。
怖がっても仕方ないと思い、一旦深呼吸をする。
スゥーッ、ハァー　×２
「よしよし、大丈夫、大丈夫」
自己暗示をしながら上着にナイフをしまい、枝や落ち葉を集め、焚火を付ける。
喰い終わった四肢の骨に肉を刺し、焼き肉にする。

焼き肉を作っている途中に、血抜きが終わっている狼の木に飛び移り、狼を持ち上げ血だまりに落とさないように川の方面に投げておく。
「あっぶな！　血だまりんとこに落とすとこやったわ！」
狼を投げ終わった次に毛皮も回収をして、巾着が置いてある木の根元に置いておく。
ちょうどいい感じに焼けたのであろう、焼き肉の匂いがしてきた。
（おっと、ちょうどいい感じに焼けてきたな）
焚火に近づき、骨付き焼き肉を取り、齧り付く。
（かてぇ、そして少し苦げぇ、やっぱり昨日のあれは空腹のおかげかぁ、空腹は最高のスパイスって言われてるがほんまにそうだったんやなぁ）
苦げぇ苦げぇと言いながら、ゆっくり焼き肉に齧りつき、今日の予定を考える。
（今日はぁ、残りの狼と今の狼の解体やろぉ、後は武器は加工できんからくっつけてるとしてぇ、防具ってか毛皮装備はナイフとかでイケルやろ多分、作業が終わったら最後に片付けした後に住むとこ探さねぇとな）
食い終わった後、骨は洗ってそばに置いておき
解体中に汚れないよう、上着は脱いで少し離れた所に置く。

解体準備が終わり次第、狼入りの巾着と狼を川の近くまで持っていき解体した。
1匹目の時は、何回か吐いてしまっていたが
今回は、慣れてしまったのかスムーズに解体ができるようになっていた。
（変やなぁ、最初げぇげぇ吐いてたのに今では、当たり前のようにできちまってる。もしかして、転生ではなく憑依物なのか）
と、考え解体中の狼を解体し終わり、骨についている肉を削ぎ木に干し、骨を洗った後に、もう1匹の毛皮を剥ぎ取り洗って干した後に、肉と内蔵の解体に入っていく。

メッシュ入りの狼の解体中に心臓の付近から、水色の小さな玉が出てきた。
つかみ取るとプニプニとした感触がする。
そして急に、それを食べたいという食欲が出てしまう。
(なんか美味しそうやなぁ、食べてええやろうか、いやだめだ、こんなんくって腹下したらしゃれならん、いやしかし…)
と、抗いつつも少しずつ、口に近づけてしまい
パクッと食べてしまう。
食感はつるつるしているグミに近く、味は血が入ってしまったらしく鉄の味がするが、なぜか美味しいと感じた。
(あっ、これくっそうめぇやん、くせになるなぁこれ)
モグモグと食い終わると、体の内から何かが来たと思ったが、一瞬で過ぎてしまったため何が来たのか分からなかった。
(これ、コアか何かか?もしかして食ったら強くなる系か?前の狼はなかったが魔法が使えるか使えないかであんのか?)
と仮説を立てながら、解体を続ける。
数時間後…
(よっし、終わったわぁ)
クゥと言いながら体を伸ばす。
一旦、上を見てみると
(昼まだやん、やったぜ、まだ作業できるな)
毛皮や骨を加工する前に川で汚れた体とナイフを洗った後、上着を着る。
木の根元にある毛皮と骨、後は蔦を川のそばまで持っていき加工する。
(下半身ってか半分いらんな、引きずっちまうし袋にしちまうか、残った毛皮は袖とか靴、予備用に残して、後骨は十の形にして蔦で固定してブーメランにして、肋骨は毛皮つけて籠にするか、折れんから変な形になるが)
とどんどん加工していき、乾いてあるもう一つの毛皮を持ってきたり、肉を削ぎ落とし骨だけを持ってきたりとどんどん加工していった

結果
骨の棒（顔の骨付き）×２（ローブの外側の背中）
肋骨と毛皮で作った籠　×２
毛皮のローブ×２（重ね着）
骨ブーメラン×６（ローブの内側の背中と腰）
骨の手形（小手）
毛皮の靴
（なんかすんごい重装備、これに巾着とか持つんやろ？重すぎぃ！）
と作ったはいいが、少し重量オーバー気味になってしまった。
（まてまて、火ぃ出したように集中したら、強くなるんとちゃうかなぁ）
気を体全体に流すようにしてみると、身についている装備が軽くなっているような気がする。
（おっ、これはやったんじゃないか？）
と油断するとまた元の重さに戻ってしまった。
（おっんも、やべぇ集中せんと）
ゆっくりと深呼吸をし、歩いてみる。
装備はまた軽くなっていた。
（早く住居探して、保管しないとちっとやばいなぁ、これ）
とブツブツいった後に、装備を一旦外す。
（よし、旅する準備ってか片付けするか）
と干してある肉を巾着にしまったあと、装備し直す。
（ゴッテゴテの装備やなぁ、まぁ多分きっと恐らく大丈夫やろ、いけるって俺なら）（慢心）
周りを見て忘れ物がないのを確認し、
山が見える森の方に不安になりながらも歩いて行った。

# ０５

川から離れ、１ヶ月目

住居（洞窟）を探すのに大体３日かかり、食料は川で出なかった動物（主に草食）を狩り、焼き肉にしてその場を凌いだ。

住居（洞窟）は、蟻の巣状態となっており、身長が自分と同じか少し高いぐらいのゴブリンが１０匹以上いた。

が、黒い狼より遅い攻撃をしてきたため楽に回避ができ、処理する事ができた。

遅いと言っても数が多いせいで擦り傷など多くついたが、いい機会だと思い緑色の薬を一滴だけ腕に垂らす。

すると、腕から緑色の粒子がでて、擦り傷が塞がっていくのが見えた。しばらくすると垂らした所が少し痒くなった。

数十分後

痒みが収まり取りあえず、洞窟内のゴブリンを外に出し、燃やしておく。

この作業を繰り返し、拠点となった洞窟の一部を自分の部屋にした。

戦利品を整理するのに数日使い、残りの日にちは狩りに使うことにした。（１月を３０日とする）

狩りをしている途中にオークと出会ってしまった。

ゴブリン戦で、手に入れたナイフと緑色の薬半分を犠牲にオークを倒し、棍棒を２つ、石斧を１つを戦利品として、手に入れたがクソ重いせいで、往復しないといけないし、運ぶのも時間がかかってしまった。

倒した敵

黒狼×２３

メッシュ付き黒狼×３

（黄色のコア×２・水色のコア）

草食動物×５２

ゴブリン×１５

オーク×３
１ヶ月目　最終装備
上着
毛皮のローブ（マスク、フード付き）
毛皮の袋×４（２つは食料入れ、残りは戦利品入れ）
緑色の薬
水筒
胃袋型水袋×２
ナイフ×２
ぼろぼろのナイフ×４
骨ブーメラン×２
毛皮の靴
毛皮と骨の籠（肩掛け付き）

２ヶ月目
少し熱くなってきたような気がする。
熱くなったせいか毛皮の腐りが早い、すぐに変えないと鼻が曲がっちまう。
今回も狩りばっかりになりそうだ。
最近気が付いたのだが、コアを食べたおかげなのだろう。
水と雷の魔法が使えるようになっていた。
そのおかげで汚れた体を洗うことができるようになったのでコア様々である。
今月は、魔法の威力と精度を上げたいため修行をすることにする。
倒した敵
黒狼×９３
メッシュ入り黒狼×５
（茶色のコア・水色のコア×３・赤色のコア×２）
草食動物×１０２
ゴブリン×４

オーク×1
2ヶ月目　最終装備
上着
毛皮のローブ（マスク、フード付き）
毛皮の袋×4（2つは食料入れ、残りは戦利品入れ）
緑色の薬1／2
水筒
胃袋型水袋×2
ナイフ×2
ぼろぼろのナイフ×3
骨のナイフ×2
骨ブーメラン
毛皮の靴
毛皮と骨の籠（肩掛け付き）
取得魔法
水：水弾（おもちゃ水鉄砲）
水：クリエイトウォーター
火：炎弾（小さな火の玉）
雷：雷撃弾（静電気）
3ヶ月目
熱い…森の中だから少し涼しいが草原だったら、多分三途の川渡っているところだった。
夏かなぁ水の魔法が便利すぎる。しかし全魔法の威力が心もとないんだよなぁ
ということで今月も魔法の修行をする。
地の魔法は石とか加工できるから創作の幅が広がり色々と便利になった。

3ヶ月目　最終装備
上着
毛皮のローブ（マスク、フード付き）

毛皮の袋×４（２つは食料入れ、残りは戦利品入れ）
緑色の薬１／２
水筒
胃袋型水袋×２
ナイフ×２
ぼろぼろのナイフ×３
骨のナイフ×２
石のナイフ×２
骨ブーメラン
毛皮の靴
毛皮と骨の籠（肩掛け付き）
取得魔法
水：圧縮水弾（水鉄砲）
水：クリエイトウォーターハンド
雷：雷撃弾（テーザーガン）
地：石加工
火：炎弾（進化なし　森でやったら危ないんだよなぁ）

４ヶ月目
念願の固有スキル？みたいなのゲットしたぞ！
どんな感じかというと、シューティングゲームに出ているあの十字クロスヘアだ！
狙いたいところをじっと見ると十字クロスヘアが出て、直感で投げられるようになったんだ！
魔法でも同じようにそこに飛ばせるようになりました！とても便利やったぜ！
欠点としてはあまりにも遠くに投げようとすると届かなかったり、距離減衰とかも考慮してない、本当にそこに投げるか、発射させるだけのスキルとなったが無いよりましだし、クロスヘアに絶対命中するからいいスキルをもらったとはしゃいだ。
冷静になると今の行動は、さすがに恥ずかしくて誰も見てないが、

前世はいい大人だったのに子供に戻りすぎたと顔を赤らめた。

４ヶ月目　最終装備

上着

毛皮のローブ（マスク、フード付き）

毛皮の袋×４（２つは食料入れ、残りは戦利品入れ）

緑色の薬１／４

水筒

胃袋型水袋×２

ナイフ×２

石のナイフ×２

骨ブーメラン

毛皮の靴

毛皮と骨の籠（肩掛け付き）

取得魔法

固定：クロスヘア

５ヶ月目

少し寒くなってきた。

何で人種は冬眠出来ないんや、ほかの動物は冬眠しちゃって狩りもできんし、仕方ねぇから遠征することにした。

今月と来月は、東西南に２週間ずつ遠征すること。

遠征するための準備を、開始し一旦今日は寝ることにする。

最初は、東に行くことにする。

東では、途中途中に狼の死骸や草食動物の死骸、果てにはゴブリンやオークの死骸など多くあった。

黒狼やゴブリン、オークもいたが、こちらが隠れていたため見つかることはなかった。

大体３日かけ、奥に進んで行くと黒狼と灰色狼が争っているのが見えた。

黒狼側は、ゴブリンとオークと協力している。

灰色狼側は、狼しかおらず黒狼側と比べ数が少ない。

しかし、灰色狼側の方が有利になっている。
主な原因としては、灰色狼側は、魔法を多く使っていており、黒狼側に圧倒しているらしい。
さすがにあの争いに入る勇気はない、見つからないように遠回りをして奥に進む。
奥は灰色狼側の縄張りらしい、死骸や黒狼がいない代わりに灰色狼がポツポツといる。
灰色狼がこちらに気づいてしまったときは、焦ってしまったがそのまま素通りされてしまった。
もしかしたら友好関係になれるのかなと、思いながら奥に進むことにした。
大体一週間はたっただろうか、奥に進んで行くと少しずつ周りの木々が、大きくなっていくのに気がついた。
そして奥には、とてつもなく巨大な白い（銀？）狼が見えた。
２０Ｍはありそうな白い狼は、今眠っているらしい、その周りでは灰色狼が白い狼を囲んで眠っている。
その光景に、驚きながらも見ていると、突然白い狼が目を開けこちらを見た。
見られた瞬間に蛇に睨まれた蛙のように体は動かなくなり、そのままへたりこんでしまった。
こちらを見ている、白い狼の目が青から黄色に光った瞬間に心臓が捕まれたような錯覚を覚え、足腰もたたず本能もこのまま死んでしまうと思ってしまい、その場で漏らしてしまった。
恐怖に支配されていると、白い狼の目が青に戻ったと同時に体が動くようになり、脱兎の如くこの場から拠点まで３日と掛からず、全力で逃げ出した。
争いの真ん中を走ったにも関わらず敵の攻撃に当たらなかった。
拠点に帰ったのと同時に毛皮が大量に敷いてある寝床にそのままダイブし、毛皮にくるまり寝た。
翌日、漏らしたまま寝たせいで少し寝床と着ているローブが臭くなってしまった。

さっきの出来事で気分が落ち込んでしまった。
流石にこのまま寝床とロープを放置できないため洗うことにした。
倒した敵
草食動物×２３
５ヶ月目　最終装備
毛皮のロープ×３（マスク、フード付き）
毛皮の袋×４（２つは食料入れ、残りは戦利品入れ）
緑色の薬１／４
水筒
胃袋型水袋×２
ナイフ×２
石のナイフ×６
骨ブーメラン
毛皮の靴
毛皮と骨の籠（肩掛け付き）

６ヶ月目
寒くなってきた。
気分が戻って来たので今度は、西に行くことにする。
６時間西に進むと、横幅が馬車二頭分の獣道を見つけた。
すると、ここから見て左奥の右曲がり角から多くの足音と何か転がる音がしたため、急いで近くの茂みに隠れておくことにした。
隠れておくと、曲がり角から約１０人の馬に乗った冒険者？と馬車が３台来た。
そのまま隠れて様子を見る。
１台目は、豪華な装飾品を付けた馬車で中には、どっかの貴族だろうか、ふくよかな人が乗っていた。
２台目は、荷馬車だろうか、樽やら木箱が多く積まれてあった。
３台目は、奴隷を乗せた馬車が走っていた。
中には、獣人の少女と幼女の姉妹と鳥人っぽい少女の３人が乗っていた。

食料とついでに奴隷の３人を誘拐すれば、狩りとか楽になるんじゃないかなと少し軽い気持ちで作戦を考える。
ゲームでは、こういう言葉がある。
味方（自分のみ）の足を引っ張らずに敵の足を引っ張ると、カッコつけながら森の中に戻っていった。
倒した敵
無し
６ヶ月目　最終装備
毛皮のローブ×３（マスク、フード付き）
毛皮の袋×４（２つは食料入れ、残りは戦利品入れ）
緑色の薬１／４
水筒
胃袋型水袋×２
ナイフ×２
石のナイフ×６
骨ブーメラン
毛皮の靴
毛皮と骨の籠（肩掛け付き）